

第55回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

これからの人生にそなえて

愛知県 阿久比町立阿久比中学校 一学年

遠藤 実弥

「これからもずっと一緒に居られるかな。」

去年、私の母は手術をした。手術後、病室で会った母は、点滴にながれ、酸素吸入器をつけてベッドに横たわっていた。怖々と声をかけると、母はうっすら目を開けて私に目を向け、手を伸ばした。私はその手をにぎって、また母に声をかけた。不安だった。いつもガミガミうるさい母、私から見ても子どもっぽい所がある天真らんな母がどこか遠くへ行ってしまうのではないかと。

この手術の前、祖母が母に言っていた。「あなたは大した保険に入っていないんだから。何かあったら大変よ。」

どういう事か聞いてみると、私の母は、何度か入院しているため、保険に加入するタイミングを逃してしまったと言っていた。薬を飲んでいたり、入院した事がある場合は、一定期間保険に加入出来ない事が多いと教えてもらった。だから私の母は、希望する保険に加入出来なかったのだ。

『病気は年をとったらなるものだ。』と思っていた。多分、多くの人が同じ様に思っていると思う。『まだ若いから大丈夫。』『今、健康だから大丈夫。』と安心してしまいがちだ。でも、それではいけないのだ。病気になってからでは保険に入る事が難しくなってしまう。保険に入らないまま病気になってしまうと、家族に与える不安はより大きくなってしまふのだ。大切な家族と一緒にいられなくなるかもしれないという不安に加え、今後の生活に対する金銭的な不安も感じる事になる。

今年の夏休み、私は、母と保険のパンフレットを色々と見てみた。毎月支払う金額によって、受けられる保障に差があったり、子どもを対象としたもの、女性を対象としたものなど様々なコースがあった。毎月数千円のお金を払うだけで、病気、ケガの際に受けられる保障の多さに驚き、絶対に入っておくべきだと思った。一方で、少ないお給料でやりくりしている若い人は、保険に入りたがらないのではないか、とも思った。もし私が二十代で健康に不安なく仕事を

第55回中学生作文コンクール

していると考えると、きっと保険よりもおしやれや旅行にお金を使いたいと思うだろう。月々数千円のお金も、お小遣いにしたいと思っ
てしまうだろう。健康な人であればある程、この様に思うのではな
いかと思った。

病気がちな人ほど保険は必要なサポートだと思う。しかし、病
気の人には簡単に保険に加入出来ない。逆に健康な人は保険に加入出
れるのに、その必要性がイメージ出来ない。上手くいかないなあ、と
思う。

今年の五月に曾祖母が亡くなった。九十二歳だった。とても元
気なおばあちゃん、九十歳を過ぎても自転車で買い物に行ったり、
習字を習ったり、編み物が上手だった。とても健康に長生きしたなあ
と思う。日本の平均寿命は年々長くなっている。曾祖母の様に九十
歳を過ぎても元気に生きている高齢者は沢山いる。これから先、私
達には長い長い人生が待っているのだ。「若いから」「今、健康だから」
ではなく、長い人生の先を見て、計画的に人生設計を立てていく事
が大切なのだと思う。保険は、その大切な役割の一部を担っている。
何があるか分からないからこそ、何があっても良い様に、私も大人
になったら保険についてしっかり考えていこうと思う。